



No.67 トランプ教の信者たちは・ 4年間の選挙キャンペーン政治が残したもの



下に引用したのは、4年前アメリカでトランプが当選した大統領選挙直後に、日本版ハフィントンポスト(当時)に掲載された私の投稿です。(2016年11月)

~~~~~

衝撃の米大統領選から2週間。いったい何が起こったのか、テレビではいろいろ解説してくれたけれども、はじめはいっこうに腑に落ちなかった。ところがあるテレビ局の映像を見て、あっそうか、と納得してしまった。

放映されたのは2007年のレスルマニア。世界最大のプロレス興行である。WWE会長を尻目に美女二人を連れてさっそうとリングに登場したのはドナルド・トランプ氏。マイクをもってマクマホン会長への口撃を始め、レスラーの代理対決で負けたほうが坊主頭だと挑発。数万人の観衆を熱狂させる。自分側のレスラーが負けそうになるとネクタイ姿のまま相手会長と場外戦。大逆転で勝ったトランプ氏はリング内で会長を丸刈りにしてしまう。



## 谷口博文の政策イノベーション

Date :2021年01月22日

興奮のるつぼと化したスタジアムは絶叫に包まれて幕を閉じる。今日はいい出来だった、と楽屋に引っ込んで、ギャラもらって家路につけばみなハッピーだ。トランプ氏の得意技は観衆を熱狂させ扇動する言葉、しぐさ。自身が演出家兼役者のショービジネスである。彼は今回の選挙でこのビジネスに成功したのだ。

しかしプロレスと違って今度のショーは、終わっても家路につくわけにいかない。楽屋に引っ込もうとしたら、敵意むき出しの大観衆が待ち受ける別の舞台でスポットライトを浴びてしまった。こちらはリアルな政治闘争の世界。古今東西、権力闘争に敗けたら命が危ない。ここでは彼の得意技が通用しない。やったことのない技を一から勉強するのは、70歳の老人にとってはつらいことだ。自分にできないことは誰かにやってもらうしかない。レーガン大統領も似たようなところがあった。しかしいくら経験はあり、自分の役割を知り、人を見る目をもっていた。さあてどうするか・・・というのが今ではないか。

2007レスルマニアにはオチがある。勝利に酔うトランプ氏は最後にレフェリーに投げ飛ばされてマットに沈むのだ。彼は何を考えてこのシナリオを書いたのか。

~~~~~

今読み返してみると、トランプという人は結局4年間、政治の世界でこのショービジネスの得意技を通用させ、選挙キャンペーンをやり続けた人だったということ。これが最後に国民の審判に投げ飛ばされてマットに沈んだのなら「面白いショーだった」で終わるのでしょうか。しかし・・・彼の言うことなら根拠があろうがなかろうが何でも無条件に信じる信者が大勢いるというのは不気味です。

宗教の教祖が政治や動乱に登場するのは、紅巾の乱、太平天国の乱など世界に珍しくありませんが、今のアメリカで・・・？！

単なるショーでは終わらないかもしれない。分断とか党派争いとかいう程度の平時の生やさしい事態ではなくなるかもしれません。そうでないことを祈りますが。